

第三章 ギャンブルムエタイ

第一節 ムエタイ賭博とは

第一項 ムエタイ賭博の種類と方法

ムエタイの賭博には、大きく分けて三種類の賭博方法がある。「胴元制の賭博方法」「賭け試合」「賭け率に応じて複数の人と賭けをする賭博方法」の三種類である。

の「胴元制の賭博方法」は、3組から5組の試合の勝者を予想し、賭け金と共に胴元に渡す。賭け金はいくらでもよく、予想した選手が全部勝つと3組の場合、賭け金の3倍、5組の場合は5倍のお金が貰える仕組みである。1組でも負ければ、その賭け金は胴元のものになる。この指名式の賭けは、胴元自体が少ないので、外国人には、見つけるのが難しい⁴⁰。

の「賭け試合」は、一試合ごとに観客ではなく、選手の仲間から賭け金を集めて興行するものである。青コーナーに出場する選手と赤コーナーに出場する選手のどちらかが勝つかという単純な賭博である。しかし、これは賭け試合であって、負けた選手側は一パーツも貰えない。勝った選手と仲間が賭け金を総取りするのである。この賭け試合の方法は、例えば、A選手とB選手の試合に際し、双方の選手のファイトマネーが1万パーツの場合にA選手の仲間10人で1000パーツずつ出し合い1万パーツ集める。そしてB選手は、5人で1万パーツを集めたとする。双方から2万パーツの合計である。この合計金額をレフリーのニュートラルな場所に試合が終わるまで保管される。試合が終わり、A選手が勝てば2万パーツを10人の仲間に分け合い、一人2000パーツを得る。B選手が勝てば、2万パーツを5人で分け合い、一人4000パーツを得ることができるのだ。この賭け金というのは、何人が出しても良く、A選手側1万パーツ、B選手側で1万パーツを集められれば何人でも出し合っても良い。勝てば出した割合によって倍の金額が相手側から支払われ、負ければ一パーツも貰えないという賭博であるのだ。この「賭け試合」は、大抵1:1の場合イーブンの賭け率で行われる。この賭博方法は、現在でも東北タイの試合では頻繁に見られ、バンコクのメインスタジアムでも時折見られる賭博方法であるが、この「賭け試合」のことをVailは、関係者間の賭博（インサイドベット）と言っている⁴¹。この賭博方法は、観客を含まずに選手を含めた対戦するジムとジムの間で賭けをするからである。これらの「賭け試合」興行は、自分の所属しているムエタイジムや村、興行のグループの共同体を確認する賭博であると見受けられる。一試合ごとのファイトマネーをグループ全員で負担し、勝った方だけが全額手にすることができるのである。この興行自体を調査することはできなかったが、この興行をよく知るプロモーターによると、このような興行の賭博は、ジムの中の団結を高めるために東北タイなどでは頻繁に行われていると言う。

⁴⁰ 薬師寺 1999, p113

⁴¹ Vail 1998, p132

以下に賭け試合に臨む少年の家族の様子をフィールドワークから述べる。(Fig35)

ペットマイチラウボン君 13 歳 (49 キロ中学二年生、ファイトマネー2000 バーツ) は、中学生ムエタイ選手である。彼は、2007.8.15 (カーイサンペットスタジアム) の試合に、一万バーツの「ドゥアンパーン」(賭け試合)に出場する。彼の父親であるポースタウィーさん 48 歳は、建築資材を運ぶ運転手であり、少年のジムの会長兼専属コーチでもある。(父親は、寺祭りで1戦のキャリアを持つと言う)少年の父親は、以下のように言った。

「息子の試合に一万バーツの賭け金を集めるのはすごく苦勞がいるけども、それでもジムの仲間や応援者などからお金を集めます。お金出してくれる人は、親戚、仲間、父親の友人などで、その合計を一万バーツにします。相手も一万バーツを用意してくるので合計二万バーツにします。勝ったほうが全部貰います。勝ち金は、お金を出した人たち全員で出した割合に応じて分けます。この賭け試合の目的は、子供の我慢する心を信じるために賭けをするのです。お金を出してくれる人もみな同じ気持ちで子供を信じてくれるからお金を出してくれるのです。」と言った。

さらに、「このイサン(タイ東北部)地区では、観客がしているギャンブルではなく、ドゥアンパーンが多く、試合もバンコクのようにビジネスじゃないから面白い。」と試合の盛り上がり話をした。



Fig35 賭け試合に臨む選手と家族

(2007.8.11 父親も姉も少年の賭け試合に金を出し合う。ウボンラチャタニー県)

次に、賭け試合を興行するプロモーターのインタビューを述べる。(Fig36)

ウ・ムアンウボンプロモーター(通称ビッグ・ウ)64歳によれば、ドゥアンパーン(賭け試合)は、イサン地区ではよく見られる興行であるという。彼は、先月に合計金額100万バーツの賭け試合を行ったと言う。

「今では、バンコクのスタジアムでは少ないけれども、こちらでは時々、賭け試合の興行が見られます。これは、どちらのジムが強いかを試しあう時に行います。このドゥアンパーンの興行は、負けると損も大きいけれども、勝つと全額が自分のものになるから面白い興行です。こちら辺には、100ぐらいのカイモエ(ムエタイジム)があつて月に一度ぐらい

は賭け試合興行をします。このドゥアンパーンは、選ばれた選手を信じるためにやります。だから、父親、母親の他、友達やトレーナー（ムエタイの先生）までがみんなフーン（グループ）であることを示すためとチュアチャイ（心を信じるために）やるのです。バンコクの賭けは、トラギット（金儲け）だけの賭けだけど、こちらのイサン地区の方が、ムエタイのシラッパ（芸術性）が高いのです。金儲けの賭けでなくて、ジムや仲間の名誉のための賭けだからです。」

彼は、ジムのオーナーやプロモーターをやりながらラジオのムエタイ放送の解説までをしていると言う。オーナーは、選手の練習を見ながら話してくれた。このヌン・ウボンジムでは、ジムで賭け試合を開催しチケットを売って観客に見せる時もあると言う。



Fig36 プロモーター

（2007.8.10 ウ・プロモーター 64 歳 Sit Nung Ubon Gym）

Fig37 賭け試合のプログラム



ตีกดาวรุ่ง จ.ประสิทธิ์ชัย

ขอเชิญชมมวยรายการนัดยิ่งใหญ่ไอ้แอ๊ดถล่มเดิมพัน
ศุกร์ที่ 11 สิงหาคม 2543 เริ่มแข่งขัน เวลา 20.00 น.

ณ สนามมวยเวทีค่ายสุรนาธิ
จัดโดย จ.ส.อ. ประสิทธิ์ บุญเตียร

ประกบคู่มวยโดย

จ.ส.อ.ประสิทธิ์ บุญเตียร พร้อมทีมงาน, เป้ ป.จุ่มจิม, จิงโจ้ สิงห์ ตลาดสด,

จ.ส.อ.ณรงค์ศักดิ์ งานในเมือง, จ.ส.อ.ตระกูล ชื่นแก้ว

สนับสนุนโดย

ท.อ.พจน์ เจริญภูมิ พ.ท. สมศักดิ์ ยนจอหอ พ.ต.ประสิทธิ์ คำแดง นายสมศักดิ์ ทวีตกุล

ก้านนเรศ เปงกลาง นายทรัพย์ ยศกลาง เอ. ม.11 ค่ายขุนทด เจ้าของศึกเพชรทองคำ

เสี่ยสุทัย จันกลิ่น เจ้า ของตีกดาวรุ่ง ข.สุทัยการช่าง

คู่ที่	ชื่อนักมวย	ชื่อคณะ	น้ำหนัก	เดิมพัน	ที่อยู่
1	แถมโป๊น้อย พยัคฆ์คำ	ลูกสุธรรม	34	4,000 บาท	ค่ายสุธรรม
		ก.สืบชาติ	34		โคราช
2	แผ่นทอง ศิโรตถ์เล็ก	จ.ประสิทธิ์ชัย	34	6,000 บาท	โคราช
		ข.เจริญ	34		โคราช
3	เด่นนคร ลาวน้อย	ลูกท๊อปริง	35	10,000 บาท	ปะคำ
		ศิษย์เขียนชวน	33		เมืองคง
4	สุวิทย์เล็ก ชัชวาลย์	ศิษย์สุเมธ	31	10,000 บาท	ห้วยแถลง
		ศูนย์กีฬาเยาวชน	31		โคราช
5	เดชโพธิ์โพธิ์ สีทอง	ส.สุวัฒน์	40	10,000 บาท	ชุมพวง
		ลูกหนองยางทอง	40		ลำน้ำราชน
6	ประสิทธิ์ชัย งาคำ	ศิษย์สามพัคฆ์	28	10,000 บาท	ขุนเขาจากบุรีรัมย์
		ศิษย์ป้าพันธ์	28		ขุนเขาจากชัยภูมิ
7	แสน แจ๊ค	พ.นอบน้อย	30	10,000 บาท	ขุนเขาจากลำน้ำราชน
		ลูกสมานราช	30		ขุนเขาจากโมสูง
8	พลังแสง ณรงค์เพชร	ส.สุวัฒน์	28	10,000 บาท	แจ้งซ้ายผ่านตลอดจากชุมพวง
		ข.ศิษย์คนจักร	28		ขุนเขาพันธุ์จากหนองพวงมะนาว
9	ศิลาชัย	ส.บุญศักดิ์	30	10,000 บาท	บึงไผ่
		ศิษย์ครูเยี่ยม	30		ขุนเขาจากนางรอง
10	วันธงชัย มะนาวน้อย	ศิษย์กีฬาเยาวชน	35	20,000 บาท	สุดยอดฝีมือจากโคราช
		ส.วิจิตรตรา	35		ขุนเขาจากชัยภูมิ
11	กุนลาบทอง พรศักดิ์	ส.สมพงษ์	35	20,000 บาท	ขุนเขาจากเสิงสาง
		ปัญญาทิพย์	35		ขุนเขาจากชัยภูมิ
รองคู่เอก					
12	เจียงชัย สุรฤทธิ์	แก้ววิเศษ (ส.วันชาติ)	47	40,000 บาท	จอมมีจากมือโคราช
		เพชรหนองก			ขุนเขาพันธุ์จากเสิงสาง
คู่เอก					

名前 所属ジム 体重 賞金額 住所

(2000年8月11日 コラート県での賭け試合。)

次に の賭け率に応じて複数の人と賭けをする賭博方法である。これは、現在のバンコクのメインスタジアムのムエタイ賭博で主流になっている賭博方法である。この賭博の具体的な方法を以下に述べる。

選手の技術や力量を良く見比べて始める。賭けのタイミングは、最も早い段階ではワイクルーを舞う時の身体の仕上がり具合を見て賭けを始めるか、1 ラウンドの様子を見てから賭けてもよいし、2 ラウンドでも 3 ラウンドでもいつ賭けを始めてもよい。賭けを受ける人間がいれば、その時点で成立するのである。賭けは基本的にはどちらが勝つかという単純なものであるが、試合の流れを見て賭けるタイミングが重要となる。

例えば、2 ラウンドの終わりに、賭けを始めることにしたとする。まず、特有の賭けのサイン（以下に掲載）を示して、たとえば「2 対 1 で 1000 バーツ、赤」と言う。この意味は「自分は赤に 2 対 1 で 1000 バーツ賭けるから、誰か勝負しないか」という意味である。もし赤が勝てば相手から 1000 バーツを受け取り、負けたら相手に 2000 バーツを支払うという意味である。大抵の試合では（特に早い回に行なわれる賭けでは）「俺は赤に 1000 賭ける」という声が飛ぶ場合が多いが、これは 1 対 1 のイーブンで賭けたいという意味である。この場合、自分とは逆の選手に賭ける相手が名乗りをあげれば賭けは成立し、勝敗によりどちらかが 1000 バーツを得、どちらかが失うことになる。

損をしたくなければ、別の相手を探して、反対側の選手に自分で決めた賭け率を提示し、反対の選手に賭ければ良い。このように保険のような賭けで損失を防ぐこともできる。賭け率は、試合の流れを見て、選手のどちらが優勢に試合を進めているか判断し、自ら賭け率を提示して勝負を誘うのである。

このラウンド毎に複数の人と賭け率を提示しながらする賭博方法は、賭け率を示す独特なサインが存在している。（Fig38～46）

Fig.38 賭け率 10 - 1



Fig.39 賭け率 1 - 1



Fig.40 賭け率 2 - 1



Fig.41 賭け率 3 - 1



Fig.42 賭け率 3 - 2



Fig43 賭け率 4 - 1



Fig44 賭け率 5 - 3 (親指小指を動かす)



Fig.45 賭け率 5 - 4 (親指を動かす)



Fig.46 賭け率 7 - 4



参考 月刊「Monthly MuayThai」⁴²

⁴² 「MONTHLY MUAYTHAI」VOL1 SISICO PROMOTION 2001,p7

第二項 ムエタイギャンブルの方法

【ラジャダムナンスタジアム Prajuab Paoin プロモーター 2007.8.19 日曜日】

ラジャダムナンスタジアムの日曜日の興行は、新人選手のムエタイ興行が行われる。よってスタジアムの観客も一階席の観光客以外は少なく、ギャンブラーもまばらである。日曜日のラジャダムナン興行は、シエンヤイと呼ばれる大型のムエタイギャンブラーも来場しない。この日曜日の興行にて、一般的なギャンブラーのムエタイ賭博方法を調査した。被調査者になってくれたのはウィンさん(30歳)である。彼は、大学卒で一月の給料が28000バーツという。年齢を考慮するとかなりな高給取りでタイ人の中産階級に属すると見てよいだろう。本日のムエタイ賭博の準備金は40000バーツである。

《例1第4試合 赤コーナーSriphet Sor.Somboon 青コーナーPichitchai 96 Peenang》

【1ラウンドの中盤】Aと賭け率を赤7：青4で、青コーナーの選手に100バーツ賭けた。
(赤が勝てば700バーツをAに払い、青が勝てばAから400バーツを貰う)

【3ラウンドの中盤】Bと赤5：青2で、青の勝ちに青に賭けた。
(赤が勝てば500バーツ払い、青が勝てば200バーツ貰う)

【3ラウンドの終了時】Cと赤15：青1で、今回は赤コーナーの選手に賭けた。これは、3ラウンド終了時に青コーナーの不利を察知して反対側に賭けた。
(赤が勝てば、1500もらい、青が勝てば100バーツ払う)

最終結果は、赤コーナーの選手が逆転の勝ちに終わり300バーツ儲けることができた。

1ラウンド、3ラウンドは、彼は、青コーナーの選手に賭けているため、Aに700バーツ支払い、Bに500バーツ支払った。但し、Cとの間に赤コーナーの勝ちに1500バーツ賭けていたので、Cから1500バーツをもらった。

合計するとAとBにマイナス1200バーツ、Cから1500バーツで300バーツの儲けが出た。

(もしここでこのまま青コーナーの選手が勝った場合は、900バーツの損をしていた)
Aから400バーツ貰い、Bから200バーツ貰い、Cに1500バーツを支払っていたので900バーツの損失であった。内訳(A+400、B+200、C-1500) = -900バーツ

《例 2 第 6 試合 赤コーナーJaded Sor. Sirisak 青コーナーLaysak Por .Kamron》

【1 ラウンド終了時】A と赤 5 : 青 1 で 500 パーツを青コーナーに賭けた。

(青が勝てば A から 500 パーツを貰い、赤が勝てば A に 2500 パーツを払う)

【2 ラウンド終盤】B と赤 6 : 青 1 で 500 パーツを青コーナーの勝ちに賭けた。

(青が勝てば B から 500 を貰い、赤が勝てば B に 3000 パーツを払う)

【3 ラウンドの終盤】C と赤 1 2 : 青 1 で、今回は 100 パーツを赤コーナーの選手に賭けた。

(青が勝てば、C に 100 パーツを払い、赤が勝てば C から 1200 パーツを貰う)

最終結果で青の勝ちであった。彼は、A から 500 パーツを貰い、B から 500 を貰い、C に 100 パーツを払った。900 パーツの儲けが出た。

(もし、ここで逆転が起きて赤コーナーの選手が勝った場合は)

彼は、A に 2500 パーツ払い、B に 3000 パーツを払い C から 1200 パーツを貰っていた。

この場合は、4300 パーツの損失であった。

一般的なムエタイ賭博は、上記のように行われる。被調査者のウィン氏は、一日の興行で多くて 1 万パーツの賭けを行う予定であると言う。彼らのような小額を賭けているギャンブラーは、ナックパナン (ギャンブラー) と呼び、大きなギャンブルをするギャンブラーをシエンムエと呼ぶ、シエンムエは、ムエタイの情報を掴んでいる大型ギャンブラーであり、ムエタイ専門のプロギャンブラーのことをさす名称である。シエンムエは、自分が勝たせたい選手を応援する時は、膝蹴が入ったときに大きな声で蹴りにあわせた声で掛け声をかけてレフリーにアピールをする。膝蹴りはパンチよりいい点数になるのでシエンムエの影響で負けそうな選手が逆転勝ちをする場合がしばしばある。賭け金が多いのはメインイベントの試合である。KO でなければ、4R に後半までに有利に試合を進めた選手が勝つ場合が多いと彼は言う。シエンムエのムエタイ選手の特徴を見抜く目は鋭く、スタミナのある選手、根性のある選手、どうしても金が必要な選手などなどの情報をよく知っているのである。シエンムエは、負けそうな選手 (ムエローン) の選手でも一発逆転をするパンチや根性がある選手に賭けては、大儲けするそうである。彼によれば、シエンムエは、プロモーターやジムのオーナーと関係が深く、時にはレフリーの採点や興行に大きな影響を及ぼすと言う。

また、シエンムエに聞くとジャッジの採点で一番高いのは確実な膝蹴りであると言う。この膝蹴りの数が勝敗を大きく左右するのである。

第三項 メディアでのムエタイ賭博

ムエタイ賭博はスタジアムの外でも盛んに行われる。代表的なのはテレビ放送を見ながら行われるムエタイ賭博「レン・ムエ・トゥー」である。これは、テレビのムエタイ放送の実況中継を見ながら賭けを行う行為を指し、「ボクシングルーム」(ホン・ドゥー・ムエ)と呼ばれる部屋で行われる。近年では、携帯電話を持ったスタジアムのギャンブラーがスタジアムに来ることができない地方のギャンブラー達に情報を提供しながら行われる。(Fig.47,48)

これらは賭け専門に場所を提供する店などで行われる。テレビ中継でビッグ.マッチが放送される日には、ムエタイの賭けを楽しむ者がそこに集まる。部屋にはテレビと雛壇状にならぶ客席しかない。そこには賭けをしない客は入ることはできない。軍人や警察官もよく賭けに来ると言う。「ボクシングルーム」は、登録費を支払って営業している娯楽場であるが、テレビ放送されているムエタイを見て賭けあうことは違法である。しかし、この店でムエタイ賭博をして逮捕者が出たことは過去に一度もないという。



Fig.47 ボクシングルームの観客席



Fig.48 ボクシングルームのテレビ

(1999.10.13 BOXINGROOM ホン・ドゥー・ムエ ヤソートン県)

また、賭けは農村でも行われる。メコン川に面した農村Kで筆者が目にした村の賭博は、次のようなものであった。(Fig.49)

土曜の昼 11 時 30 分、村のある家に 30 歳から 65 歳の男性が 9 人集まり (いつもはこれに高校生 2 人と主婦が 1 人加わるという) 屋外まで聞こえる大歓声を発しながらテレビ観戦をする。テレビ局はチャンネル 3 で、オームノーイ・スタジアムからの中継である。

ここには賭けの胴元は存在せず、全員がワイクルーか 1 R までの動きを見て赤コーナーか青コーナーに賭ける。賭ける選手が決まった者が賭けるコーナーを告げ、20 バーツを袋に入れる。敗者は 20 バーツを失い、勝者は、袋の中の金額を分配する。村ではスタジアムと違い 1 R で賭け終わった時、賭けはほとんど終わっている。しかし、2 R で再び賭けを受ける人があれば、賭けは再開される。このように村でも、ムエタイの賭けは公然と行われている。軍人がプロモーターなので、警察が踏み込むことはない。サイコロ賭博はその数日前にも逮捕者が出たばかりであるが、ムエタイ賭博だけはこの村ではまだ捕まった者はいないという (2000.9.3 チェンカン県)

興味深いのは、テレビのアナウンサーが、視聴者が賭けを行なっていることを前提にした放送をしていると思われることである。アナウンサーはワイクルー (闘いの舞い) の時間と 1 ラウンドが終るまでのあいだに、選手それぞれの細かい情報を述べる。出身地、年齢、身長、体重、得意技、戦績、時にはファイタータイプであるとか、クレバーなボクサータイプであるとか、ジャイローン (短気である) で後半に負けやすいとか、どういう相手に強いのか、何キロ減量したかななどの情報を伝えるのである。アナウンサーも試合中に選手の名前を呼ばず、赤の選手、青の選手と呼ぶ、これはムエタイの生中継がエンターテイメント性の強い格闘技番組を伝えるのではなく、賭博をする人の為だけに放送されているからである。これらのテレビ放送は、録画などは一切なく、すべてが生放送である。これはタイの法律で「各テレビ局は、週に 2 時間以内のムエタイ中継のみ許される (1989) ⁴³」と定められている。これらの理由をムエタイファンにたずねると「各テレビ局が無秩序にムエタイ中継を行った場合、みんなギャンブルをやるからタイ人が働かなくなる」と苦笑した。また、ラジオでもムエタイやサッカーの情報を発信する FM.99 は、賭博用の情報番組として知られている。この FM 放送を愛好しているのが、タクシーの運転手たちである。筆者は、タクシー運転手が集合するホテル前や空港付近でこの FM 放送を聞きながら賭博に興じる姿を目撃している。

⁴³ National Culture Commission 1997,p60



Fig.49 賭博をしている村人達

(2000.9.3 チェンカン県 K 村、土曜日の午後にムエタイ放送を見て賭博をしている村人達)

また、テレビでのムエタイ賭博には、スタジアムの情報屋が存在している。(Fig.49) スタジアムの情報屋とは、スタジアムで行われているムエタイのギャンブル情報を察知し、場外やタイの地方にいてムエタイ賭博をしているギャンブラー達に情報を流すのである。この情報とは、スタジアムで行われているギャンブルの賭け率をいち早くテレビを見ているギャンブラーに伝えるのである。



Fig.50 複数の携帯電話を持った情報屋

(2006.8.26 ラジャダムナンスタジアムの二階席)

この情報屋で最も有名なのは、シエン・ウである。(Fig.51) シエン・ウは、一ヶ月の売り上げが 100 万バーツ、税金だけでも 10 万バーツを支払うムエタイの情報屋である⁴⁴。彼は、携帯電話を使ってタイ人ギャンブラーのいる世界各地にスタジアムの賭け率の情報を流している。台湾、香港、マカオはもちろんのこと日本にいるムエタイギャンブラーにまで情報を流していると言う。)

⁴⁴ 2007.8.24 シエン・ウ ルンピニースタジアム インタビュー



Fig51 シエン・ウ
(2007.8.24 シエン・ウ)

彼の自伝『Sien u yuu yang sien(菱田注:シエン・ウ ~シエン・ウのように暮らす~)』(nokhook 2006) には、彼がムエタイビジネスに関わり、テレビが普及すると同時にタイ全土にいるムエタイギャンブラーに情報を発信する「情報屋」として知られ、携帯電話の普及と共に巨額の富を得るまでの過程が以下のように語られている。p121 ~ 147 を要約した。

彼は、テレビの普及と共に、スタジアムの「ギャンブル情報を送る商売」を思いついた。ギャンブラーへの合図を送り方は、テレビに映る場所にいてあらかじめギャンブラーと取り交わした方法で情報を送る。例えば、タバコを吸い始めると、3:2 だという意味であり、赤コーナーが有利の場合、柱のそばに立ったら赤有利を告げる合図であり、柱から遠い所に立ったら青が有利を告げる合図である。この合図は、スタジアムの前や朝の選手の計量後にギャンブラーと情報を送る契約をする。この情報屋稼業は、1978 年頃から始めている。テレビ放送が始まった頃は、放送が月に数回しかないので、情報料の収入は一ヶ月で 700 パーツから 800 パーツであったが、しばらくすると彼の情報料の収入は 5 万パーツにまで上昇した。

その後、ポケットベルが普及し始めると、ポケットベルで情報料を払ったギャンブラーに配信しはじめる。例えば、11 = 青有利、22 = 赤有利であり、その後続く数字が賭け率である。赤有利で賭け率 3:2 の場合は、ポケットベルの表記が 22-3・2 と配信する。彼は、この頃、放送に映る合図とポケットベルの情報送信で一ヶ月の収入が 10 万パーツ以上儲かり始めた。

携帯電話が普及し始めると、オートメッセージ機能を使って試合の賭け率や予想などを聞けるサービスを始めた。一分間の料金が 9 パーツで一試合でも 100 人以上がオートメッセージを利用するために一試合に 5 R あるために 1R で 3 分、 $5 \times 3 = 15$ 分、 $15 \text{ 分} \times 9 \text{ パー}$

ツで、一試合の情報料が 13500 バーツになる。この試合が一日に 7、8 回あるため、 $13500 \times 7 = 94500$ バーツ、一日の情報料が 94500 バーツになる。一週間の内、各スタジアムにて大きな興行には必ずテレビ放送があるため、月の収入は 40 万バーツから 50 万バーツになった。

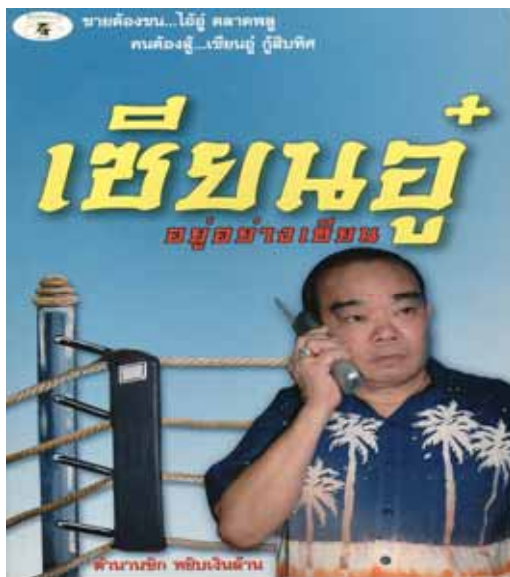


Fig.52 『Sien u yuu yang sien (菱田注:シエン・ウ ～シエン・ウのように暮らす～)』の表紙

第二節 ギャンブルムエタイ化

第一項 ギャンブルムエタイへ

本項では、近代スポーツ化したムエタイがタイ全土に広がりギャンブルスポーツへの変容する過程を追ってみたい。National Culture Commission (1997) には、以下のようにムエタイのファンの変容が述べられている。

「1978 年、ムエタイは、バンコクだけでなく、地方に住む人達にまで人気が出るようになる。ムエタイは、バンコクでは毎日興行され、土日は、一日に試合が二回行われるようになり、午後の試合は、テレビとラジオで放送されるようになった。最も放送のベースとなるスタジアムは、ラジャダムナンとルンピニースタジアムである。この頃にムエタイは、スポーツと言うよりもビジネスになっていた。理由は観客が賭博を行う人が多くなってきたからである。わざと八百長試合をする選手も出てきた。ムエタイは、良くない方向へ向かってきたのである。ムエタイの試合は賭博をする人に影響されるようになってきたのだ。ムエタイ選手は、ムエタイにあるすべての技を使わなくなり、限られた技で闘うようになった。そして観客もムエタイ興行の時には、ワイクルー（闘いの舞いの儀式）を見たがなくなった。長いワイクルーを舞う選手には、ブーイングが起きるようになった。」⁴⁵とある。ムエタイの興行にファンが賭博を行うようになったことが記されているのである。

1980 年に出版された「THE THAI BOXING MGAZINE」には、以下のような記事が掲載されている。

「不景気のせいでタイ人の生活が困窮している。犯罪をせずにいるために彼らの最後の希望は、やはり賭博を選び「宝くじ」をはじめ競馬場は、毎週大盛況である。国の芸術とも言われるムエタイのリングでも現在の観戦者の 99 パーセントはムエタイ賭博をする人である。もっといい生活をするために、その中の人たちが賭博を仕事としてやり続ける。」⁴⁶

タイではスポーツには賭博がつきものというほど賭博が盛んであり、ムエタイもその例外ではなく、現在のスタジアムはギャンブラーが大多数を占めている。しかしながら、ラジャダムナンスタジアムのオーナーのジャルンポーンプン氏から、ムエタイのスタジアムが創立された当初は、ギャンブラーの存在が少なかったという情報が得られた⁴⁷。ジャルンポーンプン氏は、「ラジャダムナンスタジアムが創立した当初（1945 年）からギャンブラーの存在はあったがその数は少なく、ムエタイ賭博は現在のような賭博方法ではなく、どちらかのー

⁴⁵ National Culture Commission 1997, p58

⁴⁶ 「THE THAI BOXING MGAZINE」1980 10.9 p14

⁴⁷ 現在のラジャダムナンスタジアムとルンピニースタジアムでのムエタイ賭博は合法であると認められている。

方が勝つか負けるかを競うギャンブルをしていた。」⁴⁸と言う。

このジャルンポーネ氏がどちらかに賭けるといった賭博方法は、上記の第一節、第一項で 番目に説明した「ドゥアンパーン」である。このドゥアンパーンは、どちらかの選手が勝つか負けるか、という単純な賭博であり、大抵の場合は、1 対 1 の賭け率で行われる賭博である。

しかしながら、現在スタジアムで主流になっている賭博はこのような関係者間（インサイド）で行う賭けではなく、 番で説明した、賭け率（ラーカー・トー・ロン）を利用し、どちらの選手にも賭ける方法であり、5R が終わるまで、誰とでも賭ける観客間の賭博方法である。このマネーゲームのような賭博が現在のスタジアムで行われている基本的なムエタイ賭博であり、このような賭博を行うギャンブラーが増加したのが近代ムエタイをギャンブルスポーツへの変容を促したきっかけではないかと考えられる。

では、このギャンブラーはいつ頃から増加したのであろうか、オールドムエタイ選手に、「ムエタイのギャンブラーはいつ頃から出現したのか」という質問をした。タマサート大学のデン師範は、以下のように答えた。

「ラジャダムナンスタジアムができた頃 1945 年は、まだギャンブルをやる人が少なかった。多く見積もっても 10 パーセントもいなかった。」⁴⁹

タイ政府の後援で設立されたムエタイインスティテュートのアムヌエイ校長は、「自分の現役時代（1958 年引退）は、ギャンブルをする人が 10 パーセントぐらいしかいなかったが、プット・ローレック選手（1960 年代後期から 1977 年頃）の頃からこのような賭博をするムエタイギャンブラーが増えはじめた。それまでは（1960 年代）まだそれほどギャンブラーはいなかった。」⁵⁰と言っている。

ラジャダムナンスタジアムのプロモーターであるオートウープロモーター 59 歳は、「ムエタイの興行に関わって約 40 年経つけど、最初の頃（1960 代後期）は、スタジアムにギャンブラーが 30 パーセントもいなかった。」⁵¹と言っている。

1973 年にラジャダムナン・ルンピニーの両スタジアムで試合をした長江国政は、「ルンピニースタジアムもラジャダムナンスタジアムもギャンブラーはいたけども、そんなに気にならなかった。いたとしても 3 割くらいだろう。」⁵²と言った。

次に、ムエタイの情報誌をもとにギャンブラーの増加を調査した。1950 年代に出版された『Gira (sport)』誌を 4 冊、『Giramuay (Sport Boxing)』誌を 1 冊、1960 年代に出版された『Boxing』誌、1970 年代に出版された『Boxing』誌を一冊入手し、それらの内容を調査すると、選手の動向や試合結果が掲載されているほか、試合のための予想記事など賭

⁴⁸ 2007.8.27 ジャルンポーネ総支配人 ラジャダムナンスタジアム

⁴⁹ 2007.8.16 タマサート大学 ムエタイ部 デン師範 72 歳

⁵⁰ 2006.1.12 ムエタイインスティテュート アムヌエイ校長

⁵¹ 2006.1.19 オートウープロモーター 59 歳

⁵² 2007.9.12 元 WKA 世界フェザー級チャンピオン 治政館館長 埼玉県三郷市

博をするために有用な情報が掲載されていることが窺える⁵³。

1955 年に出版された「Boxing」には、以下のような八百長試合の記事が掲載されている。「グライサックは、1R に連打の蹴り技でポーンセンをノックアウトしたが、モンシットが八百長の試合をしていたのが発覚したのである。モンシットは、真剣な試合を演じていたが、八百長が発覚するとレフリーから追放を言い渡されて、サックモンコン・ムアンウボンとの試合も無効試合になった。」⁵⁴

このような八百長があったという記事から 1950 年代には、既にムエタイの興行に大きな金銭の動く賭博が関与していた事が分かる。

しかしながら、先に述べたムエタイ賭博方法の重要な要素である賭け率は、1985 年までムエタイ情報誌の紙面に見当たらない。ムエタイ情報誌「Muay Too」の記者であるプーンペットペットマイ氏は、以下のように言った。

「私がはじめて雑誌に賭け率を発見したのは、1985 の「Champ」⁵⁵でした。この頃からタイでテレビを見て賭ける人も増えたのでしょう。」⁵⁶と言った。彼によれば、それまでのムエタイの情報誌では、賭け率が掲載されていなかったと言う。筆者が入手した 1986 年の雑誌「Fighter」には、目の見えないシエンムエ（ギャンブラー）のコラムに次のような事が書かれている。

「1986.1.14 サムロースタジアムにてキオソーン・ソーカノクラット（赤）対ポーンテープ・シット・シアンナイ（青）の試合は、3 ラウンドまでは、キオソーンが 7 対 1 でムエローン（負けそうな選手）であり、ポーンテープに勝てそうにもない。キオソーンに賭けた人はみな黙りこんでしまった。しかし、4 ラウンドに入りキオソーンは、よく膝蹴りを使い始め、応援団の声も大きくなり、その時、シエンノイ（目の見えないシエンムエのニックネーム）は、「キオソーンが必ず勝つからもう大丈夫だ」と仲間に告げた。4 ラウンドが終了した時にキオソーンがムエトー（勝ちそうな選手）5 対 2 になっていた。」⁵⁷

先にあげたプーンペットペットマイ記者の言葉にあるように 1985 年頃からこのような賭け率がムエタイ情報誌に登場したのであるならば、この時期には既にムエタイのスタジアムでは、この賭け率を駆使した賭博方法が主流になっていたことが分かる。ギャンブラー達もドゥアンパーンのような賭け（勝つか負けるかの 1 対 1 の賭け）では、幸運に頼るだけのギャンブルしかできない。しかし、賭け率を使ってラウンド毎に賭ける相手と賭け率を変更していけば最終的に自分のムエタイを見抜く力量によって儲ける確率が多くなる。この賭け率を利用するようになり、ムエタイギャンブルを生業にする人達も出現してきたと考

⁵³ 「Gira」1951.2.11、1951.4.15、1951.3.4、1956 . 8.13、「Giramuay」1951.1.14

「Boxing」1955.12.13、「Boxing」1966.2.28、「Boxing」1971.5.30、

⁵⁴ 「Boxing」1955.12.13 p4

⁵⁵ 「The champ」161 11.15 1985 p33

⁵⁶ 2007.8.22 Muay Too rai sapda 社 Poon Phet phetmai 記者 45 歳にインタビュー

⁵⁷ 「FIGHTER」48,p25 1986.1.31

えられる。ムエタイインスティテュートのアムヌウェイ校長がブット・ローレック選手の活躍した時代（1960年代後期から1977年頃までバンコクのメインスタジアムで活躍）にギャンブラーが増えだしたと述べているのは、この賭博方法の事である。

この頃と同じくしてラジャダムナンスタジアムはプロモーター制度を開始した。先にあげた「Muay Too」の記者ブーンペットペットマイ氏は、同誌の985号で以下のように述べている。

「1957年頃のムエタイは、今のようなビジネススタイル（菱田注：賭博ムエタイを中心とする興行）ではなかった。ラジャダムナンスタジアムの経営が悪化し赤字興行になってから、それまでのマッチメイクの役割をスタジアムが辞め、外部の人間（菱田注：現在のプロモーター）と契約してギャンブラーを集める興行のスタイルを1957年から1972年にかけて徐々に増やしていった。

ラジャダムナンスタジアムができてから1957年までは、クルームエ（菱田注：ムエタイの師範）がスタジアムへ行き、自分の弟子を紹介して試合に出場させていた。マッチメーカーは、好き嫌いが激しく、自分の好みの選手や自分に親しい関係があるジムの選手を勝たせようとする。汚い手を使って不公平な試合をマッチメイクする。自分の利益になる選手に勝たせ、自分と関係のない選手に強い相手とのマッチメイクをさせていた。観客もこのような不公平な試合に飽きて、試合を見に行かなくなった。これが原因でスタジアムが赤字になったのである。それから、徐々にギャンブルを行いやすい公平なプロモーターがムエタイの業界に入ったのだ。このようなプロモーターがムエタイ業界に入ってからムエタイ選手は増加した。ムエタイがビジネスとして確立したからである。それまでのムエタイ選手は、職業というよりもムエタイが好きでやっていた選手ばかりであった。1977年頃にアピデット、アドウン、ブット・ローレック、プッパートノーイが活躍した時期が終わると完全に今のようなムエタイ興行になっていた。」⁵⁸

このように、ムエタイの興行がエンターテイメント性ではなく、ギャンブラーを集める興行に変容し始めたと述べている。これが、1957年から1972年であるならば、この時期から賭け率を駆使した賭博方法が主流になりはじめたと見てよいのではないだろうか。

ギャンブラーがその頃に増えたと言う理由の一つにスタジアムの三階席に仕切られた金網が設けられたことがあげられる。ラジャダムナンスタジアムの観客席は、三段階に客層を分けている。現在の入場価格は、リングサイドである一階席の入場料が2000バーツ（約6000円）であり、この席は観光客を中心とした外国人用の席である。二階席は、460バーツ（1380円）であり、プロギャンブラーやプロモーターなど大金を賭けあう人々の空間となっており一般人はめったに入らない。三階席は、金網で仕切られた空間で席の料金は一番安い230バーツ（約690円）である。この金網で仕切られた三階席は、粗暴な振る舞いの目立つ観客席であり、度々乱闘などが見られる。タイのスタジアムは、この三階席の観客のほとんどは、労務者風であり、半ズボンに草履履きの姿を許容している。この三階席

⁵⁸ 「Muay Too」985, 2005.8.5

にはたびたび、賭け金を持っていないのに、賭け逃げをしてスタジアムの外で見せしめの写真を貼り出されているギャンブラーが見られる。(Fig53)これが現在の金網で仕切られている客席の存在理由である。

プロモーターの話によれば、「この金網は、ラジャダムナン創立当初には、三階席を分けるための金柵であったという。しかし、ギャンブラーが増えてきた 30 年程前（1970 年代後期）になるにつれて、試合の最中に乱闘になり、時には試合の結果やレフリーの判定に不服のギャンブラーが空き缶などをリングに投げつけるため、三階席の金柵を天井まで伸ばし金網で仕切られた空間を作った。」⁵⁹とすることであった。

この金網の有無は、ギャンブルの過熱化を表わしている。現在のラジャダムナンスタジアムでは、三階席に入る前に金属類や刃物を所持していなかというセンサーの付いた探知機で身体検査され入場する。また、缶ジュースなどを持って入場することはできない。これも危険行為の防止策である。スタジアムの売店でプラスチックの容器に入った飲料水を購入することはできるが、缶入りの飲料水は販売されていない。空き缶の投げつけの防止のためである。現在でもこのように試合の結果に不服を持つギャンブラーの行動に注意が払われているのである。このようなギャンブラーの危険防止策や金網の三階席が作られたことから 1970 年代後期にギャンブラーがスタジアムに急増したことが分かる。

また、ムエタイの情報誌にスタジアムで行われている賭博の賭け率が 1985 年頃に掲載され始めたのは、テレビの生放送を見て賭ける人々の出現ではないかと考えられる。ムエタイの試合は、すべて生放送であり録画放送ではない。それは、テレビを見てムエタイ賭博を楽しむ人々のためである。ムエタイ賭博は、本来スタジアム以外では違法である。しかしながら、実際には、テレビを見てムエタイ賭博を行うことは、タイでは一般的にごく普通に行われていることなのである。タイにおけるテレビの普及は Phongpaichit, Baker の報告によれば 1985 年から急速にタイ全土に普及したと述べられている⁶⁰。

以上のように、ムエタイ賭博は、1960 年代には、スタジアムで少数の人が賭博を行っていたものが、1970 年頃より増加し始め、1980 年代に入るとほぼスタジアム全体でギャンブルが行われていたと考えられる。1985 年頃には、テレビの普及なども手伝い、賭け率を駆使したムエタイの賭博は、タイ全土で行われるようになったと考えて良いだろう。

⁵⁹ 2007.8.24 シンノイ オーナー70 歳、オートゥープロモーター59 歳、チャトイプロモーター50 歳、ソンマークボンサク オーナー66 歳へのインタビューによる。

⁶⁰ Phongpaichit, Baker 1998, p165



Fig.53 見せしめの写真

(スタジアムの入り口には、賭け逃げをしたギャンブラーの写真が貼り出される。)

第二項 ギャンブルプロモーター

現在のプロモーターは、記念式典や特別な試合⁶¹を除いてギャンブルを考慮したマッチメイクを行っていると言ってよい。

ムエタイ興行を手がけるプロモーター自身もギャンブルをすることで有名である。筆者の知る限り、ラジャダムナンスタジアムの契約プロモーターでは、ソンチャイ・ラタナスバン⁶²を除いてすべてのプロモーターがギャンブラーである。アンモープロモーターは、現在ラジャダムナンスタジアムの UBC 放送のムエタイ中継の興行を受け持つプロモーターヤイ(大きな興行主)として知られる。彼は、自分は元々チャイナタウンの片隅で賭場を営んでいたギャンブラーであると言う。その賭場を改修して今のムエタイジムを作ったと話した。

「自分は、中国人で親が中国からきたんだ。だからヤワラート(チャイナタウン)に住んだのさ。ヤワラートでは、賭場を営んでいたんだよ。賭場は、入り組んだ敷地の中でやっていたよ。その賭場を改修してチュワタナジムを作ったんだ。20 年前ぐらいにムエタイの選手を一人養ったんだ。それがムエタイのジムを始めるきっかけになってね。今は選手が 30 人ぐらいいるよ。入り組んだ所にジムがあって驚いたかい?ここは元々賭場だったのさ。」⁶³

⁶¹ 国王陛下の誕生日を祝う式典や 2005 年のアンダマン沖地震の救済チャリティーマッチでは、ゴールドメダリストのソムラックカムシンが英雄であるための興行が行われていた。このようなギャンブルのない興行は稀である。

⁶² 自身の著書『Wan・Somchai』 2005 ,p87 でギャンブルを一切しないと明言している。

⁶³ 2000.1.24 アンモープロモーター チュワタナジム チャイナタウン

彼のようなギャンブル好きなプロモーターは多い。現在、彼は日本の国際式ボクシングとキックボクシングの興行にプロモーターとして幾度となく来日し、選手を派遣している。彼は、日本のキックボクシングをタイのムエタイの昔の姿に似ていると語る。日本のキックボクシングはエンターテインメントのお祭りであって、話題作りをしないと興行できないと言う。ギャンブラーである彼は、日本のキックボクシングをギャンブラーが賭けてみたいと思わない試合であると言うのだ。なぜならキックボクシングは、人気のあるメインイベントが勝つことがファンから望まれている試合であるからと言う。

ワンパデットプロモーターは、プロモーターとジムのオーナーを兼ねている。彼のジムは、小型選手ばかりのジムである。年齢も 22 歳くらいまでの選手が多く在籍している。どうしてあなたのジムは小さい選手ばかりを集めるのですか、と尋ねた。彼の言葉は、以下のとおりであった。

「自分のジムには、外国に選手を送らないから大きいムエヤイ（大きなムエタイ選手）はいないんだよ。おまけに、自分の興行には、ムエヤイは使わないよ。ファイトマネーも高いし、お客さんも喜ばない。お客さんは、小さい選手の方が喜ぶだろ？タイ人は、ギャンブルをするのは、126P（57.15 キロ）がちょうど良いよ。動きが早いし、ギャンブラーが一番好きなクラスなんだ。大きな選手は、ギャンブラーはあまり好きじゃないよ。逆転が少ないんだから。」⁶⁴（選手の小型化は、第四項で詳しく述べる）

次に、選手の立場から現在のムエタイ興行を見してみる。チャーリー・タウイントاون選手 37 歳(Fig54)は、現役ムエタイ選手である。彼は、夜の歓楽街の用心棒をしながら現役選手を続けている。彼は、海外でもユニークなエンターテインメントボクサーとしてその個性を知られファイトマネーも高い。このような彼は、ラジャダムナンやルンピニーでは、試合をするチャンスがないと言う。「僕はラジャダムナンとかルンピニーでは、試合はたぶんないよ。お客さんはギャンブル好きだし、プロモーターは小さい選手を選ぶから。」⁶⁵彼によれば、スタジアムの観客はギャンブルを目的に来ているので、彼のようなエンターテインメントボクサーよりも、若くてスピードがある選手が望まれ、彼のようなエンターテインメントボクサーでファイトマネーの高いボクサーはプロモーターが使いたがらないと言う。

⁶⁴ 2006.1.14 ワンパデットプロモーター44 歳 ルークタパカージム

⁶⁵ 2007.8.18 チャーリータウイントاونジム 37 歳 ソイカウボーイ



Fig.54 チャーリータウンジム
(2007.8.18 37歳 歓楽街ソイカウボーイ)

彼の言葉にあるように、現在のムエタイは、エンターテインメント性よりも賭博の行いや
すい、マッチメイクに価値を置くようになってきているのである。ムエタイのスタジアム
もプロモーターもみなギャンブルで興行収入を得ている状態なのである。プロモーターは、
ムエタイの興行を毎日成功させ利益をあげるには、ギャンブラーが楽しめる試合を組まな
くてはならないし、ギャンブラーがいないと毎日の興行ができないと語る。日本のように
格闘技の「お祭り」にしてしまえば、観客が飽きてしまうし、毎回のよう観客を呼べ
ないと言うのである。お祭りでは、スター選手やファイトマネーの高い選手を雇わないと
観客が来なくなるため、興行収入と釣り合わず、赤字になってしまうからである。

ラジャダムナンスタジアムのオーナーであるジャルンポン氏は、ムエタイをスポーツ
であると以下のように言った。

「ムエタイは、スポーツです。エンターテインメントではありません。」⁶⁶確かに、ラジ
ヤダムナンスタジアムには、興行が始まる前にスポーツを奨励する曲が流れる。その曲は、
グラウ・ギラー (graw gira)「みんなでスポーツをやしましょう」という曲とサンスーン・
ブラ・バラミー (samsern phra baramee)「王様の威光を尊敬する」という国王への尊敬
を表す曲が流れる⁶⁷。前述のグラウ・ギラーにもあるようにムエタイは、スポーツである
ということをスタジアムが宣言していることの表れである。ジャルンポン氏に、ムエタ
イの興行には、なぜ外国で行われている格闘技イベントのように、選手の入場曲などを使
って試合の興奮を盛りあげないのですかと尋ねるとムエタイは、スポーツであってエン
ターテインメントではないと答えられた。たしかにムエタイは、体育局がルールを設定し、
アマチュアムエタイ組織や体育大学での必修授業、教育学部での選択授業にも指定されて
いる⁶⁸。これらは、ムエタイを国民的なスポーツにしたい、スポーツとして不動の地位を築
かせたい、というナショナリズム高揚時代からの存続している国家からの目的があるのだ

⁶⁶ 2007.8.23 ラジャダムナンスタジアム ジャルンポン総支配人

⁶⁷ この曲は映画館でも上映の前に放送される。

⁶⁸ 2005.7.25 チュラロンコン大学 チャチャイ准教授の御教示による。

ろう。

さらに、「もし、ムエタイが外国キックボクシングのようにエンターテイメントになっていたら誰も賭けをしない。」と言った。スポーツとはすべての条件が平等であり、どちらの選手に勝たせたいという興行側の狙いがないものである。しかし、タイ以外で行われているキックボクシングは、興行時に様々な演出が行われる。例えば、出場選手の登場順序や入場曲、選手の着用する衣装やガウン、登場する入り口までが選手の格によって異なる。また、選手の試合時間まで新人とエキスパートでは異なる。登場選手に格の序列があり、会場の興奮はメインイベントが入場する頃には頂点に差し掛かる。一方、ラジャダムナンスタジアム、ルンピニースタジアムは、新人からメインイベントまですべての選手が統一されたルールで試合を行ない。入場曲のような派手な演出もなければリングアナウンサーも存在しない。選手の履くトランクスもコーナーの色に準じた赤色か青色に統一されているのである。ファイトマネー以外はすべて待遇が同じである。

ジャルンポーン氏は、ムエタイはタイで毎日行われているスポーツであって、数ヶ月に一回、行われる格闘技のエンターテイメントではないと主張する。ムエタイは、エンターテイメントでなくて完全なスポーツであるからこそギャンブラーも会場に来るということになる。タイ人の賭博嗜好は第一章で述べたが、ムエタイはスポーツであるからこそギャンブルが行えるのも当然であると言っているのである。

言うまでもなく、プロレスの試合では誰もギャンブルをする人はいない。プロレスにはストーリーやショー的な要素が過分に見られ、真剣勝負ではないからである。現在の日本のキックボクシングは真剣勝負で行われているが、ムエタイのように完全にスポーツ化をしているわけではない。なぜならすべてが平等ではなく、一人のスター選手が存在が興行収入を上下するからである。スター選手を作るにはマッチメイクにもスター選手を潰さないような配慮をせねばならず、完全な平等とは言い切れないからである。

ジャルンポーン氏が言う「ムエタイは、スポーツであってエンターテイメントだけではない」という言葉の意味のニュアンスにはこのような意味が含まれていた。

第三項 ギャンブルのない国際式ボクシング

タイにおいては、ムエタイと国際式ボクシングを兼ねている選手が多い。選手は、プロモーターの命令があれば、どちらにも出場しなければならないためである。国際式ボクシングは、ムエタイとの同時興行で試合が行われるが、その扱いはムエタイに比べて低い。ムエタイのメインイベントが終了し、興行の最後にもう一試合ムエタイの新人戦を終えてから国際式ボクシングの試合が始まる。その頃には、スタジアムの観客であるギャンブラーはほとんど帰ってしまい、まばらに観光客が残っているだけである。

国際式ボクシングの試合に出場する選手は、国際式ボクシングがムエタイより危険なのにファイトマネーが安いと不平をもらす時もある。それでも国際式ボクシングの試合に出場する理由は、海外での高いファイトマネーのためである。OPBF5 位にランクされている A 選手は、以下のように言った。

「ムエタイでは 2 万バーツ稼げるけど、国際式ボクシングでは 1 万バーツしか貰えないんだ。だけど日本や外国の試合では、10 万バーツ貰えるんだ。だから国際式ボクシングの試合もやっているんだ。タイでは、ファイトマネーが安いけど、ひょっとして海外では大きく儲かるかもしれないんだ。」⁶⁹なぜタイにおいて国際式ボクシングは、ムエタイよりも扱いが低いのだろうか、選手のレベルにもよるが、ムエタイとボクシングを兼業しているレベルの選手ではムエタイをやったほうがファイトマネーが国際式ボクシングよりも高いのである。日本のボクシング界に選手を派遣するアンモープロモーターは、「タイでは、国際式ボクシングの興行では入場料が取れないんだよ。ギャンブラーが来ないからね。だから、今はデパートとかのイベント会場でスポンサーを探してやるんだよ。カオサイギャラクシーの頃はまだ国際式ボクシングだけの興行でも儲けられたんだけどね。」⁷⁰と言った。

タイは、歴代の世界チャンピオンに名を連ねる国際式ボクシングの世界チャンピオンを輩出している。しかし、なぜ現在は国際式ボクシングの興行では、入場料をとれないのであろうか、これをオートウープロモーターは、以下のように説明した。

「国際式ボクシングの試合は、スタジアムでムエタイとの同時興行ならタイ人对タイ人の試合を組みます。その試合は、勝った方の選手を海外で試合させるためにマッチメイクしているのです。でもあまりお客さんは見ていません。今は、ほとんどの国際式ボクシングの興行は、イベント会場やデパートで行われています。日本、インドネシアやフィリピンの選手を連れてきて政治家の宣伝のために入場料を無料で記念試合として興行するのです。それが習慣になってから誰も国際式ボクシングの入場料を払ってまで国際式ボクシングの試合を見に来なくなりました。でも一番の理由は、ギャンブラーも国際式ボクシングでは

⁶⁹ 2007.8.16 ラジャダムナンスタジアム A 選手の階級と名前は表記できない。なぜならファイトマネーに関することは、海外のプロモーターによって口外を禁止されているからである。

⁷⁰ 2007.8.24 ラジャダムナンスタジアム アンモープロモーター

賭けをしませんから会場に来ないのです。」⁷¹と言った。国際式ボクシングの興行を政治家が自分の宣伝のために無料で興行するようになったのと、ギャンブラーが来ないためであると言うのだ。

ギャンブラーが来ない理由をオートゥープロモーターは、国際式ボクシングではギャンブルをやりにくいことを説明した。「ギャンブラーは、ムエタイで賭けをしても国際式ボクシングではあまり賭けをしません。賭けになりにくいからです。なぜなら国際式ボクシングは、勝つ方と負けるほうが分かりやすいので賭けが成立しにくいのです。スタジアムのギャンブラーもほんの少しの人しかやりません。」⁷²と言った。

ムエタイギャンブルをするシエンムエのロバート氏 53 歳 (Fig54) に国際式ボクシングの試合に、なぜギャンブルをやる人が少ないか？と尋ねると「昔は、国際式ボクシングでもムエタイでも同じようにギャンブルをする人がいましたけど、国際式ボクシングは、勝ちそうな方が分かりやすく、今のムエタイみたいに最後までどちらが勝つほうが分からないというものではないからね。」⁷³と答えた。

彼の言う昔とは、1980 年以前である。1980 年以前には、タイはテレビの普及もなく、国外から他のスポーツが流入してくる前であり、他のスポーツをタイ国民が知らなかったのと、ムエタイも国際式ボクシングも同じように倒すことだけを求めた興行であった頃である。



Fig.55 シエンムエ

(2007.8.23 シエンムエ ロバート氏 52 歳)

現在の国際式ボクシングを専門に扱っているボクシング情報誌「Muay Lok(ムエローク 世界のボクシング)」1199 号 (2007 . 8 . 29 ~ 9.4) 1200 号 (2007.9.5 ~ 9.11) を調査したところ世界の強豪選手やボクシングの情報は取りあげられているが、現在のムエタイの情報誌のようにギャンブラーのため情報や賭け率などは一切掲載されていなかった。以下に「ムエローク」(Fig56,57) の目次を掲載する。

⁷¹ 2007.8.24 ラジャダムナンスタジアム オートゥープロモーター

⁷² 2007.8.24 ラジャダムナンスタジアム オートゥープロモーター

⁷³ 2007.8.24 ラジャダムナンスタジアム シエンムエ ロバート氏 52 歳

1199 号

1.ボクシング界を見る	6 ページ
2.オレドング VS デン 12 月 5 日	8 ページ
3.サムエルピーターは本当にナイジェリアの世界ヘビー級のチャンピオンになれるのか？	10 ページ
4.優秀なボクシング選手 10 人	12 ページ
5.仁井田 (Niida) VS ゲーホーンを覗く	16 ページ
6.世界ボクシングの現状をみる	18 ページ
7.世界ランキング (WBC)	20 ページ
8.ショットジャブ	22 ページ
9.ボクシングニュース	22 ページ
10.ボクシングファンクラブ	24 ページ
11.頭脳 1 つと 拳 2 つ のプロジェクト	28 ページ
12.タナット タナーコーン氏の視界	37 ページ
13.元ボクシングスターのあの日を見る アス - マー ネイルソン	40 ページ
14.世界チャンピオンコーナー イバン ガルデロン	42 ページ
15.連載小説	44 ページ
16.読者からの投稿	46 ページ
17.世界中の試合結果発表	48 ページ
18.読者からの手紙答え	50 ページ
19.ユリセース ソリス 108 IBF チャンピオン	56 ページ
20.世界ボクシングプログラム	58 ページ
21.懐かしい写真	60 ページ

1200 号

1.ボクシング界を見る	6 ページ
2.世界ボクシングの現状をみる	8 ページ
3.深いインタビュー ジョニー イーローデー フィリピン選手は世界に出世する	10 ページ
4.2007 年の燃えるファイト	12 ページ
5.ブラウェートは必ずチャンピオンマッチに出る。但し相手は？	16 ページ
6.リッディック ボー リングにまた上がる	18 ページ
7.ホーゲー アーチャー パンタム級に飛び込む	20 ページ
8.ショットジャブ	22 ページ
9.ボクシングニュース	23 ページ
10.ボクシングファンクラブ	24 ページ
11.フランク ブルーノー 過去のチャンピオン	28 ページ

12.タナット タナーコーン氏の視界	37 ページ
13.元ボクシングスターのあの日を見る テリー ノリス	40 ページ
14.世界チャンピオンコーナー ユリセース ソリス	42 ページ
15.ダーシシアン 、カトゥーブレイを相手に級をジャンプ	43 ページ
16.読者からの投稿	46 ページ
17.世界中の試合結果発表	48 ページ
18.読者からの手紙答え	50 ページ
19.情報コーナー ガーナーとナイジェリアのチャンピオン	56 ページ
20.世界ボクシングプログラム	58 ページ
21.懐かしい写真	60 ページ

上記のように、このタイで唯一の国際式ボクシングの情報誌「ムエローク」には、ムエタイ情報誌のような予想記事や賭け率などが一切見られず、世界中のボクシングの話題が書かれている。したがってギャンブルのための情報誌ではないと言えるだろう。

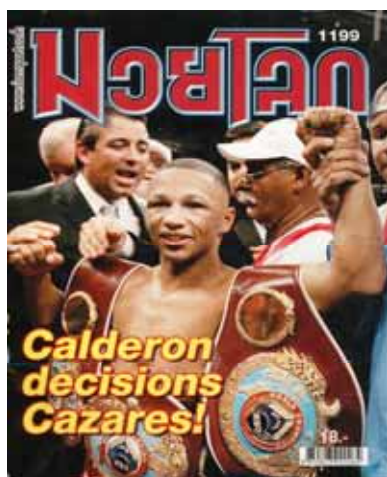


Fig 56, 57 ムエローク誌

(表紙は外国人の世界チャンピオンが飾る場合が多い。)

第四項 選手の小型化と若年化

現在のムエタイ興行は、選手が小型化している。一昔は大きなムエタイ選手ばかりであったのに、現在は小さなムエタイ選手ばかりである。タイのナンバーワンプロモーターのソンチャイ・ラタナスバンは、「昔と違って今は体格の大きい者がムエタイをやらないので、試合を組めなくなってしまったんだ。試合がないから選手も育たず増えないという悪循環になっている。」⁷⁴とやっている。

ソンチャイ・ラタナスバンのいう昔とは、ムエタイがギャンブル化する前の 1980 年以前の時代を言っている。1980 年代以前は、タイの有名なムエタイ選手と言えば、アピデットシットヒラン、デーゼルノイ・チョータナスカン、サガット・ボンタウィーなどのムエタイ重量級である 135 ポンドから 160 ポンド（以下より P と省略する）の選手がタイで勇名をはせていた。しかし、現在のムエタイ興行のプログラムを見ると、大きなムエタイ選手でもせいぜい、ウェルター級の 147P の選手である。ほとんどのメインイベントが 126P から 135P で占められている。興行によっては 100P ぐらいの 15、16 歳の少年の試合がほとんどである。

オートゥープロモーターは、「自分の持っている選手は、マイナス 126P で 100 人ぐらい、プラス 126P で 30 人ぐらいだね。大体、自分たちがチャックムエ（マッチメイク）するのは、アンモープロモーターと自分でマイナス 126P は、400 人～500 人ぐらい。126P 以上は 100 人ぐらいですね。140P を超える選手は、15 人ぐらいです。140P 以上の選手はタイではあまり試合がない。」⁷⁵と言う。

たしかに、軽量級では大番狂わせが起こりやすくギャンブルをするには面白い。なぜなら体格が小さいと打撃力が小さいため、相手からノックアウトに追い込まれるようなダメージを受けないために、後半戦からの反撃も起こりうるからである。このように、相手を倒す力がない少年の試合は、勝敗の行方が分かりにくいし、時には大逆転になり会場を沸かすことになるため、ギャンブルをするのには面白いのである。

チュワタナジムのレックトレーナーは、ある有名選手 M（36 歳）⁷⁶を「彼は、もうラジャダムナンでは試合がないだろう。」⁷⁷と言った。なぜならシエンムエが興味を示さないからであると言う。それは、スピードで若い選手には勝てないという理由からである。M 選手は、ラジャダムナンスタジアムのランキング選手であった経歴を持ち、国際式ボクシングでは、タイ国チャンピオンにもなっている。レックトレーナーによれば、「タイの試合は、スピードで勝敗が決まるからスピードのある若い選手に勝てない、技術やパワーで勝負で

⁷⁴ 薬師寺 1996,p125

⁷⁵ 2007.8.26 ラジャダムナン オートゥープロモーター

⁷⁶ M 選手は国際式ボクシングの元タイ国チャンピオンである。彼は、現在日本の興行会社と選手契約しているために名前と階級は明かせない。

⁷⁷ 2007.8.20 ラジャダムナン レックトレーナー

きる海外での試合ならば、まだまだ十分に勝てるが、スピードでは若い選手に勝てないのでタイではもう使えない。」と言った。格闘技である以上、打撃力は相手を打ち負かす最大の攻撃になるが、ノックアウトよりも判定勝ちが重要視される現在のムエタイでは、パワーよりもスピードを持った若い選手の方が有利なのである。これがレックトレーナーの言う、「いくら強くても試合がない」という言葉の意味である。この M 選手は、現在、海外に主戦場を移し、日本で行われている総合格闘技の興行で活躍している。レックトレーナーによれば、「ムエタイと異なる異国のルールであっても、三週間に一度の試合をしなければならないムエタイよりも身体の負担が軽い。」と言った。

第三章、第二項で述べたワンパデットプロモーターは、「私のジムの選手はみんな小さいよ。私は、海外に試合に行っている時間がないから大きい選手は養わない。全部で 20 人ぐらいの若者が練習しています。割合はマイナス 126P が 15 人、プラス 126P が 5 人ぐらいかな。」⁷⁸と言った。彼は、空軍の中佐を勤めながらムエタイのプロモートをしているため、海外に選手を送るようなムエタイビジネスしている時間はないというのである。

ワンパデットプロモーターが言うように、現在の重量級ムエタイ選手は、第三項で述べた国際式ボクシングの選手のように海外での試合を見越してムエタイ選手をしており、それほど重量級ムエタイ選手はタイ国内では試合が少ないのである。よって海外とビジネスをしないプロモーターのジムには大型の選手がいないという状態になってしまうのである。1990 年代初期から日本の K-1 グランプリ（ヘビー級）で大活躍したムエタイ選手である。チャンプア・ゲッソンリット選手⁷⁹は、175 センチ 75 キロ（165P）の体格であるが、身体が大きすぎるため、国内で対戦相手が不在で左ミドルキックを武器に海外で連戦を積んだ。彼によれば、「タイ国内でも試合するときは、150P 位まで減量せねば対戦相手がいない。落としても 150P の試合などそう滅多にないから、いっそのこと、体重を増やして海外のおおきい選手との試合をすることにしたのだ。」⁸⁰と言った。

また、身体の小さい選手が現在のギャンブルムエタイの主要な選手であることが、現在の少年ムエタイ人口の多さを増加させている。タイは、貧富の差が激しいことは、第一章で述べた。貧困な農村に育つ少年が現在のムエタイ選手のほとんどである。他に職業がなく、中学校以上の教育を受けられない子供達は、ムエタイという職業を選びバンコクへやってくる。プロモーターが少年ムエタイ選手を興行に使いたがる理由は、単に少年ムエタイ選手のスピードが速いとか、試合が面白いというだけではなく、少年ムエタイ選手のファイトマネーが安いことにも理由がある。使用料の安い少年ムエタイ選手を使ってギャンブラーの満足する興行をすれば、採算の良いムエタイ興行をすることができるのである。また少年ムエタイ選手は、ギャンブルに付き物の八百長試合をする危険性が少ない。少年

⁷⁸ 2007.8.25 ワンパデットプロモーター 空軍中佐

⁷⁹ 彼は、巨象というニックネームがつけられる大型選手であり、1989 年にプロレスラーの安生洋二選手と異種格闘技選手権を東京ドームで闘い一躍、日本格闘技界で有名になった。

⁸⁰ 2000.12.4 ファーマーク 世界アマチュアムエタイ選手権 IFMA CUP でのインタビュー

ムエタイ選手は、オーナーのもとで暮らし、練習も生活もジムから出ることは少なく、金銭の匂いをちらつかせるギャンブラーとの接触も少ない上、若い少年ムエタイ選手は、八百長の演技をする能力も少ないからである。

前述のアピデットシットヒランやブット・ローレックが活躍した時代（1960年代、1970年代）は、彼らの年齢は、30代後半から40歳前後にタイの名勝負物語として現在に語り継がれている⁸¹。しかしながら、現在のムエタイの代表選手の引退が囁かれる年齢は20代前半である。

現在のムエタイ選手では30代になっても現役を続ける選手は少ないが、次のように現役を続ける選手がいる。第二項であげたチャーリー・タウンイントウン選手（37歳）は、「自分は、11年前の26歳からラジャダムナンで試合をしていません。その頃までは57キロだったからまだ試合があったけど、ジムと契約で色々揉めたり、国際式ボクシングへの転向があった。その間に身体が大きくなってしまったらムエタイの試合がスタジアムで組まれなくなった。だから現在は、70キロで外国人のムエタイ選手がタイに来た時にテレビマッチなどで試合を続けている他、外国でお金を稼いでいるんだ。」⁸²と言った。

上記のように、ムエタイギャンブルスポーツ化から選手の小型化と若年化が進み、大型ムエタイ選手の試合がスタジアムで少なくなったのである。

⁸¹ 「ムエタイ名勝負大全集1」日本スポーツ映像株式会社より「タノンチット 41歳 VS ブット・ローレック 35歳」、「スラサック 40歳 VS プレダム 45歳」

⁸² 2007.8.23 チャーリー・タウンイントウン 歓楽街ソイカウボーイでインタビュー